

彙 報

会 長 影 山 太 郎

——常任委員会——

2011年度第1回常任委員会

日 時：2011年5月8日（日）11:00～16:30

場 所：関西学院大学大阪梅田キャンパス

出席者：影山太郎（会長）、井上 優（事務局長）、荻野綱男、久保智之、郡司隆男、田野村忠温、長谷川信子、早津恵美子、吉田和彦（以上常任委員）

オブザーバー：窪菌晴夫（編集委員長）、遠藤喜雄（大会運営委員長）、坂本 勉（広報委員長）、三原健一（夏期講座委員長）、高田智和、千葉庄寿（以上事務局委員）

[報告事項]

- (1) 前回評議員会以降の主な活動について
 - ・2010年度第2回評議員会（2010年11月28日）以降の主な活動（恒常的業務を除く）が報告された。
- (2) 組織・役員・任期について
 - ・2011年5月現在の組織・役員・任期について確認がなされた。
- (3) 科学研究費研究成果公開促進費について
 - ・2011年度の交付金額が170万円であること、2012年度の交付金額（予定）が160万円であることが報告された。
- (4) 2011年以降の大会について
 - ・以下の予定が報告された。
 - 第142回大会（2011年春季大会）：2011年6月18日（土）～19日（日）、日本大学文理学部キャンパス（大会実行委員長：荻野綱男氏）
 - 第143回大会（2011年秋季大会）：2011年11月26日（土）～27日（日）、大阪大学豊中キャンパス（大会実行委員長：上田功氏）
 - 第144回大会（2012年春季大会）：2012年6月（予定）、東京外国語大学（大

会実行委員長：峰岸真琴氏）

第145回大会（2012年秋季大会）：2012年11月（予定）、九州大学箱崎キャンパス（大会実行委員長：久保智之氏）

- (5) 各委員会報告
 - ・本彙報の各委員会の項目を参照。
- (6) 言語系学会連合について
 - ・2011年度運営委員会（2011年4月24日（日）、国立国語研究所）、2010年度会計監査（2011年4月29日（金・祝）、関西学院大学大阪梅田キャンパス）が開催されたことが報告された。
- (7) Journal@rchive について
 - ・学会ホームページから Journal@rchive 公開論文へのリンクの準備をおこなっていることが報告された。

[審議事項]

- (1) 広報委員会英文ページ webmaster の配置について
 - ・長谷部洋一郎委員に英文ページ webmaster を委嘱することが承認された。
- (2) 夏期講座委員の交替について
 - ・加藤重広委員に次期委員長（2011.10～2013.9）を委嘱することが承認された。
 - ・三原健一委員、風間伸次郎委員の後任の委員を佐久間淳一氏（名古屋大学）、下地理則氏（群馬県立女子大学）に委嘱することが承認された。
- (3) 『言語研究』執筆要項の改定について
 - ・『言語研究』執筆要項 3a を改定することが承認された。【別記1参照】
- (4) 「著作物取扱規程」の改定について
 - ・「著作物取扱規程」中の「委員会」の名称を「評議員会」に改めることが承認された。【別記5参照】
- (5) 『言語研究』掲載論文の転載通知について
 - ・『言語研究』掲載論文の転載通知のための様式を作成した。また、『言語研究』掲載論文を機関リポジトリに登録するための手続きについて検討した。
- (6) 2010年度決算について
 - ・2010年度決算案を確認し、一部修正を

条件に承認された。【別表 1 参照】

- (7) 外部団体の活動への協力について
- ・以下の活動に「協賛」として 30,000 円の寄付をおこなうことが承認された。
 - (i) 第 20 回国際歴史言語学会 (2011 年 7 月 25 日～30 日, 国立民族学博物館),
 - (ii) 言語進化の国際会議 (Evolang) 第 9 回大会 (2012 年 3 月 13 日～16 日, キャンパスプラザ京都)
- (8) 東日本大震災の被災会員に対する会費免除について
- ・東日本大震災に関連して, (i) 震災により深刻な被害を受けた会員が引き続き本学会の諸活動に参加できるよう, 申請のあった一般会員及び学生会員に対して 2011 年度の会費納入を免除すること, また, (ii) 2011 年度の新入会者で該当する者についても同じ措置を講じることが承認された。
- (9) 学会賞の創設について
- ・学会賞の種類, 名称, 受賞資格, 選考方法, 選考組織, 規程案などに関する学会賞創設準備小委員会からの報告を受け, 評議員会に提出する規程案と申し合わせ案について検討した。
- (10) 言語の多様性に関する啓蒙・教育プロジェクトの選考について
- ・応募があった 2 件のプロジェクトについて審査をおこない, 「危機言語関連リソースの整備と公開: 日本からの情報発信のための基盤構築」(代表者: 田窪行則氏(京都大学), 交付金額 30 万円) を条件付きで採択とした。
- (11) 会員名簿 (冊子版) の発行について
- ・今期は従来どおり冊子体の会員名簿を作成することにした。
- (12) 2011 年度予算について
- ・2010 年度予算案について検討し, 承認された。【別表 2 参照】

——評議員会——

電子メールによる投票

日時: 2011 年 5 月 11 日 (水)～14 日 (土)

東日本大震災に関連して, (i) 震災により深刻な被害を受けた会員が引き続き本学会の諸活動に参加できるよう, 申請のあった一般会員及び学生会員に対して 2011 年度の会費納入を免除すること, また, (ii) 2011 年度の新入会者で該当する者についても同じ措置を講じることについて, 電子メールによる投票をおこない, 賛成多数で承認された。

2011 年度第 1 回評議員会

日時: 2011 年 6 月 18 日 (土) 10:30～13:00

場所: 日本大学文理学部キャンパス 本館 2 階第 1 会議室

出席者: 影山太郎 (会長), 加藤重広, 佐々木冠, 小泉政利, 後藤 斉, 池田 潤, 伊藤たかね, 井上 優 (事務局長), 上野善道, 荻野綱男 (大会実行委員長), 生越直樹, 尾上圭介, 風間伸次郎, 菊地康人, 熊本裕, 坂原 茂, 城生佰太郎, 杉浦滋子, 砂川有里子, 玉岡賀津雄, 角田太作, 西山佑司, 長谷川信子, 早津恵美子, 日比谷潤子, 松村一登, 峰岸真琴, 鷺尾龍一, 青柳 宏, 呉人 恵, 佐久間淳一, 清水克正, 拓植洋一, 新田哲夫, 梶 茂樹, 金水 敏, 工藤眞由美, 窪岡晴夫 (編集委員長), 定延利之, 佐藤昭裕, 野田尚史, 藤代 節, 益岡隆志, 三原健一 (夏期講座委員長), 藪 司郎, 吉田和彦, 塚本秀樹, 上山あゆみ, 江口 正, 久保智之, 坂本 勉 (広報委員長) (評議員出席者 50 名)

委任状: 15 名

オブザーバー: 早田輝洋 (顧問), 遠藤喜雄 (大会運営委員長), 高田智和, 千葉庄寿 (以上事務局委員)

[報告事項]

- (1) 第 142 回大会について
- ・会長より開催校である日本大学に対する謝意が表された後, 大会実行委員長の荻野綱男氏より挨拶があった。
- (2) 前回評議員会以降の主な活動について
- ・2010 年度第 2 回評議員会 (2010 年 11 月

- 28日)以降の主な活動(恒常的業務を除く)が報告された。
- (3) 組織・役員・任期について
- ・2011年5月現在の組織・役員・任期について確認がなされた。
- (4) 科学研究費研究成果公開促進費について(事務局長)
- ・2011年度の交付金額が170万円であることが報告された。(2012年度は160万円の予定)。
 - ・2010年度科学研究費補助金の執行について適正との報告が早津恵美子常任委員からなされた。
- (5) 2010年度以降の大会について(会長)
- ・以下の予定が報告された。
- 第142回大会(2011年春季大会):2011年6月18日(土)~19日(日),日本大学文理学部キャンパス(大会実行委員長:荻野綱男氏)
- 第143回大会(2011年秋季大会):2011年11月26日(土)~27日(日),大阪大学豊中キャンパス(大会実行委員長:上田功氏)
- 第144回大会(2012年春季大会):2012年6月(予定),東京外国語大学(大会実行委員長:峰岸真琴氏)
- 第145回大会(2012年秋季大会):2012年11月(予定),九州大学福岡キャンパス(大会実行委員長:久保智之氏)
- ・次回大会(143回大会,大阪大学)の開催校を代表して三原健一氏より挨拶があった。
- (6) 東日本震災の被災会員に対する会費免除について(会長)
- ・東日本震災の被災会員に対する会費免除の実施について報告がなされた。
- (7) 各委員会報告(各委員会委員長)
- ・本彙報の各委員会の項目を参照。
- (8) Journal@rchiveについて
- ・学会ホームページからJournal@rchive公開論文へのリンクの準備がおこなわれていることが報告された。
- (9) 言語系学会連合について
- ・2011年度運営委員会(2011年4月24日

(日),国立国語研究所),2010年度会計監査(2011年4月29日(金・祝),関西学院大学大阪梅田キャンパス)が開催されたことが報告された。

- (10) 科学技術・学術審議会学術情報基盤作業部会でのヒアリングについて(会長)
- ・日本の学術雑誌のプレゼンスを高めるために,科学技術・学術審議会学術情報基盤作業部会のヒアリングが開催され,言語学分野では庄垣内正弘顧問と影山会長が出席したことが報告された。
- (11) 外部団体の活動への協力について(会長)
- ・以下の外部団体の活動に「協賛」として30,000円の寄付をおこなうことが報告された。(i)第20回国際歴史言語学会(2011年7月25日~30日,国立民族学博物館),(ii)言語進化の国際会議(Evolang)第9回大会(2012年3月13日~16日,キャンパスプラザ京都)

[審議事項]

- (1) 広報委員会英文ページwebmasterの配置について
- ・長谷部洋一郎委員に英文ページwebmasterを委嘱することが承認された。
- (2) 夏期講座委員の交替について
- ・加藤重広委員に次期委員長(2011.10~2013.9)を委嘱することが承認された。
 - ・三原健一委員,風間伸次郎委員の後任の委員を佐久間淳一氏(名古屋大学),下地理則氏(群馬県立女子大学)に委嘱することが承認された。
- (3) 『言語研究』執筆要項の改定について
- ・『言語研究』執筆要項3aを改定することが承認された。**【別記1参照】**
- (4) 2010年度決算・会計監査報告
- ・2010年度決算について事務局長より説明がなされた後,田窪行則,林徹会計監査委員より適正との報告があり,拍手多数により承認された。**【別表1参照】**
- (5) 小委員会内規の改定について
- ・小委員会内規について次の改定をおこなうことが承認された。(i)「委員長は会長が指名委嘱」,「委員は委員長が指名委

嘱)から「委員長, 委員ともに会長が指名委嘱」に変更。(ii) 会計監査委員は小委員会委員になることが「できる」を「できない」に変更。【別記2参照】

(6) 学会賞の創設について

・「日本語学会論文賞」の今年度(2011年度)からの実施, およびそのための規程案が会長より提案され, 質疑応答の後, 挙手による投票の結果, 賛成多数で承認された。【別記3参照】

・「日本語学会大会発表賞」の第143回大会(2011年11月)からの実施, およびそのための規程案が会長より提案され, 質疑応答の後, 挙手による投票の結果, 賛成多数で承認された。【別記4参照】

・学会賞の実施のための「論文賞選考小委員会」, 「発表賞選考小委員会」の設置と構成メンバーが承認された。

(7) 学会賞創設準備小委員会の解散について

・学会賞が創設されたことにともない, 学会賞創設準備小委員会を6月末日をもって解散することが承認された。

(8) 言語の多様性に関する啓蒙・教育プロジェクトの選考について

・応募があった2件のプロジェクトについて審査をおこない, 「危機言語関連リソースの整備と公開: 日本からの情報発信のための基盤構築」(代表者: 田窪行則氏(京都大学), 交付金額30万円)を条件付きで採択としたことが会長より報告され, 承認された。

(9) 会員名簿(冊子版)の発行について

・今期は従来どおり冊子体の会員名簿を作成することにした。

(10) 2011年度予算について

・2010年度予算案について検討し, 拍手多数により承認された。【別表2参照】

(11) 「著作物取扱規程」の改定について

・「著作物取扱規程」中の「委員会」の名称を「評議員会」に改めることが承認された。【別記5参照】

——編集委員会——

2011年度第1回編集委員会

日時: 2011年4月10日(日)13:00 ~ 16:00

場所: 大阪ガーデンパレス(新大阪)

出席者: 窪菌晴夫(委員長), 工藤真由美, 熊本裕, 郡司隆男, 斎藤衛, 杉崎敏司, 新田哲夫, Timothy Vance

[報告事項]

- (1) 「日本語学会論文賞」について学会賞創設準備小委員会の審議経過が報告された。
- (2) 2010年度の投稿・審査結果が報告された。
- (3) 139号が予定通り2011年3月に刊行, 発送されたことが報告された。
- (4) 140号(2011年9月)の編集と刊行について, 進捗状況とスケジュールが報告された。

[審議事項]

- (1) 特集テーマ
 - ・142号(2012年9月)の特集「日本の危機言語・危機方言」について詳細を検討した。
 - ・144号(2013年9月号)の特集テーマについては次期編集委員会に委ねることにする。
- (2) 特集投稿論文の締切日を1月末日から12月末日に変更することにした。
- (3) 審査過程における事故を防止するため, 投稿・審査手順の見直しをおこなった。それにともない, 『言語研究』執筆要項3aを改定した。【別記1参照】
- (4) 大会のすぐれた研究発表に対しておこなっていた投稿勧誘を今年度はおこなわないことにした。
- (5) 『言語研究』執筆要項の「日本語のローマ字化」について修正案を作成した。

——大会運営委員会——

2011年度第1回大会運営委員会

日時：2011年4月9日(月) 11:00～16:00

場所：日本大学文理学部キャンパス

出席者：遠藤喜雄(委員長)、斎藤倫明、三間英樹、高野祐二、玉岡賀津雄、野村益寛、藤代 節、彭 国躍、堀田優子、米田信子(以上大会運営委員)、荻野綱男(日本大学：大会実行委員長)

- (1) 今後の大会予定、シンポジウム企画、前回大会の反省点等が確認された。
- (2) 142回大会の応募要旨の審査をおこない、口頭発表42件(応募62件)、ポスター発表2件(応募3件)、ワークショップ2件(応募2件)を採択した。プログラム(7会場)の編成と司会者の人選をおこなった。
- (3) 142回大会(日本大学)について荻野綱男大会実行委員長と打ち合わせを行った。

——広報委員会——

学会ホームページ

- ・日本語サイトのリニューアルを完了させた。
- ・英文サイトの部分的な公開をおこなうとともに、完成に向けて作業を継続した。

——夏期講座委員会——

2011年度夏期講座委員会

日時：2011年6月17日(金)12:30～16:30

場所：北海道大学東京オフィス

出席者：三原健一(委員長)、加藤重広、西村義樹(夏期講座2012実行委員長)、橋本喜代太、風間伸次郎
オブザーバー：長谷川明香(夏期講座2012実行委員予定)

- (1) 三原委員、風間委員の後任を佐久間淳一氏(名古屋大学)、下地理則氏(群馬県立女子大学)に委嘱することを承認した。

- (2) 夏期講座実施マニュアルについて検討し、内容を確定させた。
- (3) 夏期講座2012の準備状況について西村実行委員長より報告があった。
- (4) 小林正人氏(東京大学)、長谷川明香氏(東京大学大学院生)に夏期講座2012実行委員を委嘱することが承認された。
- (5) 夏期講座2012の開講科目を「初級、初中級、中上級」の3レベルとすることを確認し、講師候補を決定した。

——小委員会——

学会賞創設準備小委員会

日時：2011年2月6日(日) 13:00～18:10

場所：東京大学本郷キャンパス

出席者：荻野綱男(委員長)、小野尚之、窪蘭晴夫、長谷川信子
オブザーバー：影山太郎(会長)、高田智和(事務局委員)

- (1) 評議員会での決定事項を確認した。
- (2) 学会賞の種類、名称、受賞資格、選考方法、選考組織、規程案などについて検討し、原案を作成した。(委員会後のメール審議により、原案を確定。)

——事務局——

2010年度会計監査

日時：2009年5月21日(土)11:00～13:00

場所：中西印刷 NACOS 学会フォーラム

出席者：田窪行則、林 徹(以上会計監査委員)、影山太郎(会長)、井上 優(事務局長)、糸魚川共子(NACOS学会フォーラム(事務支局))

田窪行則、林徹両委員により2010年度決算書と関係書類について監査が実施された。

その他

- ・言語系学会連合(UALS)事務局として、2011年度運営委員会(2011年4月24日(日)、国立国語研究所)、2010年度会計

監査（2011年4月29日（金・祝），関西学院大学大阪梅田キャンパス）を開催した。

- ・ 科学技術振興機構（JST）主催「学術論文電子化説明会—J-STAGEを利用したジャーナルの価値向上をめざして—」に出席した。（2011年6月4日（土），大

阪コロナホテル）

- ・ 電子メールによる「LSJ情報」の配信を開始した。（2011年6月6日（月））
- ・ 科学研究費研究成果公開促進費の2010年度監査が早津恵美子常任委員により実施された（2011年6月14日（火），東京外国語大学）

【別表 1】2010 年度日本語学会決算

自 2010 年 4 月 至 2011 年 3 月 (単位：円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
会 費	13,885,000	刊 行 費	4,602,570
雑 誌 売 上	1,278,750	発 送 費	443,000
科学研究費補助金	1,700,000	事 務 委 託 費	4,284,000
科学研究費補助金利息	107	大 会 関 係 費	3,504,526
預 金 金 利	8,063	評 議 員 会 費	230,039
大 会 関 係 収 入	1,811,500	常 任 委 員 会 費	540,673
広 告 料	0	編 集 委 員 会 費	461,510
雑 収 入	579	大 会 運 営 委 員 会 費	544,010
雑 益	0	広 報 委 員 会 費	163,740
夏期講座準備費返納	237,128	夏期講座委員会費	32,840
		事 務 局 費	688,410
		多様性プロジェクト(公募型)費	0
		夏期講座準備費	300,000
		言語系学会連合費	50,000
		C I P L 負 担 金	110,000
		通 信 費	557,139
		消 耗 品 費	312,663
		雑 費	0
		名 簿 作 成 費	0
		選 挙 関 係 費	0
		予備費(基金への繰入)	41,760
		名 簿 作 成 積 立 金	700,000
		選 挙 関 係 積 立 金	300,000
		多様性プロジェクト(公募型)積立金	500,000
		夏期講座積立金	500,000
収 入 合 計	18,921,127	支 出 合 計	18,866,880
前 期 繰 越 金	7,212,565	次 期 繰 越 金	7,266,812
計	26,133,692	計	26,133,692

◇収入内訳（単位：円）

会費

国内通常会員	11,668,500
国内維持会員	140,000
国内学生会員	1,047,000
国内団体会員	714,000
国内賛助会員	40,000
在外通常会員	240,000
在外学生会員	35,500

合 計	13,885,000
-----	------------

雑誌売上

書店販売	1,237,400
三省堂書店	69,300
松香堂書店（取り次ぎ業務委託）	935,000
丸善	189,000
その他書店	44,100
事務局販売	41,350

合 計	1,278,750
-----	-----------

科学研究費補助金	1,700,000
----------	-----------

科学研究費補助金利息	107
------------	-----

預金金利	8,063
------	-------

大会関係収入

大会出店料	
140回大会 1スペース 2日（11社）	110,000
3スペース 2日（1社）	30,000
1スペース 1日（1社）	5,000
141回大会 1スペース 2日（6社）	60,000
2スペース 2日（1社）	20,000
予稿集売上	
140回大会	784,000
141回大会	744,000
事務局（114～140回大会バックナンバー）	30,500
託児関係収入	28,000

合 計	1,811,500
-----	-----------

雑収入	579
-----	-----

夏期講座準備費返納	237,128
-----------	---------

◇支出内訳（単位：円）

刊行費		印刷部数	各号共に 2,300 部
内 訳	138 号 (262 p.)	139 号 (216 p.)	計 (478 p.)
印刷費	2,494,800	2,060,100	4,554,900
抜刷代	25,620	22,050	47,670
合 計	2,520,420	2,082,150	4,602,570

※割付・校正料は印刷費に含む

発送費

『言語研究』一斉発送料	138 号	231,140
	139 号	211,860
合 計		443,000

事務委託費

2010 年 4 月分～2011 年 3 月分
 日本言語学会と中西印刷株式会社により交わされた
 事務委託内容の覚書に基づく業務の代金

4,284,000

大会関係費

内 訳	第 140 回	第 141 回	計
プログラム印刷費	105,000	105,000	210,000
ポスター印刷費	109,200	109,200	218,400
大会フォーム作成費	—	119,000	119,000
予稿集印刷費	760,200	740,250	1,500,450
その他印刷費 / 備品	31,500	30,324	61,824
大会関係発送費	164,078	166,898	330,976
大会費	499,521	322,135	821,656
講師謝金等	63,200	105,120	168,320
託児関係費	0	73,900	73,900
合 計	1,732,699	1,771,827	3,504,526

※ポスター印刷費はポスターデザイン代を含む。

評議員会費

会議費（年 2 回）	192,239
資料印刷費	37,800
合 計	230,039

常任委員会費

旅費（年 2 回） 503,640

会議費（年2回）	37,033
合 計	540,673
編集委員会費	
旅費（年1回）	284,540
会議費（年1回）	21,970
英文校閲費	40,000
アルバイト費（編集補助）	93,000
その他	22,000
合 計	461,510
大会運営委員会費	
旅費（年2回）	504,330
会議費（年2回）	26,590
アルバイト費（作業補助）	11,700
その他	1,390
合 計	544,010
広報委員会費	
旅費	29,940
アルバイト費（作業補助）	28,800
サーバー保守	105,000
合 計	163,740
夏期講座委員会費	
旅費（年1回）	32,840
事務局費	
旅費（会計監査, JST 打ち合わせ）	118,640
会議費（会計監査）	5,920
事務局長活動費	360,000
webmaster 経費補助	36,000
大会実行委員長経費補助（2大会）	60,000
大会実行委員長宿泊費補助（1回）	10,000
アルバイト費（作業補助）	97,850
合 計	688,410
多様性プロジェクト（公募型）費	0
夏期講座準備費	300,000
言語系学会連合費	50,000

CIPL 負担金

2010 年度負担金 110,000

通信費

切手購入, 通常発送費 54,135
 みずほ銀行ビジネス Web 使用料 25,200
 会費請求・督促状送料 257,004
 カード手数料・送金手数料 78,600
 『言語研究』追加・抜刷・バックナンバー送料 101,695
 大会関係送料 37,700
 その他(文科省提出書類発送等)送料 2,805

合 計 557,139

消耗品費

文房具購入費 16,275
 振替用紙印刷費 58,563
 封筒印刷費 218,925
 その他(処理票, 送付状) 18,900

合 計 312,663

予備費

学会賞創設準備小委員会旅費 41,760

基金への繰入

名簿作成積立金 700,000
 選挙関係積立金 300,000
 多様性プロジェクト(公募型)積立金 500,000
 夏期講座積立金 500,000

合 計 2,000,000

◇ 2010 年度決算 予算・実績対照表

収入		(単位：円)		
科目	予算	実績	対予算差異	
会 費	13,000,000	13,885,000	885,000	
雑 誌 売 上	500,000	1,278,750	778,750	
科学研究費補助金	1,700,000	1,700,000	0	
科学研究費補助金利息	0	107	107	
預 金 金 利	15,000	8,063	△ 6,937	
大会 関 係 収 入	1,600,000	1,811,500	211,500	
広 告 料	0	0	0	
雑 収 入	0	579	579	
雑 益	0	0	0	
基金からの繰入	0	0	0	
夏期講座準備費返納	0	237,128	237,128	
収 入 合 計	16,815,000	18,921,127	2,106,127	
前 期 繰 越 金	7,212,565	7,212,565	0	
合 計	24,027,565	26,133,692	2,106,127	

支出		(単位：円)		
科目	予算	実績	対予算差異	
刊 行 費	4,252,500	4,602,570	△ 350,070	
発 送 費	500,000	443,000	57,000	
事 務 委 託 費	4,284,000	4,284,000	0	
大会 関 係 費	4,500,000	3,504,526	995,474	
評 議 員 会 費	300,000	230,039	69,961	
常 任 委 員 会 費	800,000	540,673	259,327	
編 集 委 員 会 費	500,000	461,510	38,490	
大会運営委員会費	800,000	544,010	255,990	
広 報 委 員 会 費	700,000	163,740	536,260	
夏期講座委員会費	200,000	32,840	167,160	
事 務 局 費	900,000	688,410	211,590	
多様性プロジェクト(公募型)費	500,000	0	500,000	
夏期講座準備費	1,200,000	300,000	900,000	
言語系学会連合費	150,000	50,000	100,000	
C I P L 負 担 金	110,000	110,000	0	
通 信 費	700,000	557,139	142,861	
消 耗 品 費	400,000	312,663	87,337	
雑 費	0	0	0	
名 簿 作 成 費	0	0	0	
選 挙 関 係 費	0	0	0	
予 備 費	1,231,065	41,760	1,189,305	
(基金への繰入)	—	—	0	
名簿作成積立金	700,000	700,000	0	
選挙関係積立金	300,000	300,000	0	
多様性プロジェクト(公募型)積立金	500,000	500,000	0	
夏期講座積立金	500,000	500,000	0	
支 出 合 計	24,027,565	18,866,880	5,160,685	
次 期 繰 越 金	0	7,266,812	△ 7,266,812	
合 計	24,027,565	26,133,692	△ 2,106,127	

◇資産勘定

2011年3月31日 (単位:円)

借方	金額	貸方	金額
事務支局		前受会費	
現金	236,680	国内通常	119,000
みずほ銀行口座	6,102,185	国内学生	84,000
郵便振替口座	439,412	国内団体	0
カード	0	在外個人	21,000
本部事務局		在外学生	0
事務局口座	0	前受購読料	182,700
夏期講座小委員会口座	315	未払金**	40,080
未収金*	935,000	仮受金	0
		次期繰越	7,266,812
計	7,713,592	計	7,713,592

* 未収金は当該年度内の収入の回収が間に合わなかった場合の科目。

2010年度決算の未収金の内訳は以下の通り。

内訳	金額
『言語研究』売上げ (松香堂取次分)	935,000
合計	935,000

** 未払金は当該年度内の支出が間に合わなかった場合の科目。

2010年度決算の未払金の内訳は以下の通り。

内訳	金額
2011年度 CIPL 負担金 (一部)	10,000
140回大会大会実行委員長経費補助	30,000
通信費 (切手購入)	80
合計	40,080

基金 決算

(単位：円)

収 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
期首特別会計(前期繰越)	10,871,128		
一般会計から繰入	2,000,000		
定期預金金利	1,542		
収入合計	12,872,670	支出合計	0
		次期繰越金	12,872,670
計	12,872,670	計	12,872,670

基金 資産勘定

2011年3月31日 (単位：円)

借 方	金 額	貸 方	金 額
みずほ銀行定期預金口座	9,050,000	積立金	12,872,670
京都銀行定期預金口座	3,822,670		
計	12,872,670	計	12,872,670

○基金内訳

2011年3月31日 (単位：円)

2010年度名簿作成積立金	700,000
2010年度選挙関係積立金	300,000
2010年度夏期講座積立金	500,000
2010年度多様性プロジェクト(公募型)積立金	500,000
2009年度e-ジャーナル積立金	500,000
2009年度選挙関係積立金	300,000
2009年度名簿作成積立金	700,000
2009年度言語学普及積立金	500,000
2005年度危機言語プロジェクト積立金	300,000
2004年度記念大会積立金*	1,000,000
2004年度夏期講座積立金***	2,000,000
2004年度危機言語プロジェクト積立金	402,449
2004年度e-ジャーナル積立金*	1,000,000
2003年度記念大会積立金	1,200,000
2003年度e-ジャーナル積立金	1,000,000
2002年度記念大会積立金	400,000
2001年度記念大会積立金	400,000
2000年度記念大会積立金	400,000
1999年度記念大会積立金	500,000
1998年度記念大会積立金	250,000
預金利子累積分***	20,221
計	12,872,670

* 2004年度記念大会積立金1,000,000円、2004年度夏期講座積立金の一部1,400,000円、2004年度e-ジャーナル積立金1,000,000円は京都銀行定期(預金番号002)に一括して積立。

** 2004年度夏期講座積立金は、みずほ銀行定期(預金番号035)に600,000円、京都銀行定期(預金番号002)に1,400,000円積立。

*** 京都銀行定期(預金番号002)に一括積立の2004年度記念大会積立金1,000,000円、2004年度夏期講座積立金の一部1,400,000円、2004年度e-ジャーナル積立金1,000,000円の利息。

2011年3月31日 (単位:円)

記念大会積立金	2004年度*	1,000,000
	2003年度	1,200,000
	2002年度	400,000
	2001年度	400,000
	2000年度	400,000
	1999年度	500,000
	1998年度	250,000
夏期講座積立金	2010年度	500,000
	2004年度**	2,000,000
危機言語プロジェクト積立金	2005年度	300,000
	2004年度	402,449
e-ジャーナル積立金	2009年度	500,000
	2004年度*	1,000,000
	2003年度	1,000,000
選挙関係積立金	2010年度	300,000
	2009年度	300,000
名簿作成積立金	2010年度	700,000
	2009年度	700,000
言語学普及積立金	2009年度	500,000
	2010年度	500,000
多様性プロジェクト(公募型)積立金	2010年度	500,000
預金利子累積分***		20,221
計		12,872,670

○基金内訳(銀行別)

銀行名	預かり番号	名目	2011年3月31日(単位:円)金額
みずほ銀行	048	2010年度夏期講座積立金	500,000
みずほ銀行	049	2010年度多様性プロジェクト(公募型)積立金	500,000
みずほ銀行	050	2010年度選挙関係積立金	300,000
みずほ銀行	051	2010年度名簿作成積立金	700,000
みずほ銀行	044	2009年度e-ジャーナル積立金	500,000
みずほ銀行	045	2009年度選挙関係積立金	300,000
みずほ銀行	046	2009年度名簿作成積立金	700,000
みずほ銀行	047	2009年度言語学普及積立金	500,000
みずほ銀行	039	2005年度危機言語プロジェクト積立金	300,000
京都銀行	002	2004年度記念大会積立金*	1,000,000
みずほ銀行	035	2004年度夏期講座積立金	600,000
京都銀行	002	2004年度夏期講座積立金*	1,400,000
京都銀行	001	2004年度危機言語プロジェクト積立金	402,449
京都銀行	002	2004年度e-ジャーナル積立金*	1,000,000
みずほ銀行	038	2003年度記念大会積立金	1,200,000
みずほ銀行	037	2003年度e-ジャーナル積立金	1,000,000
みずほ銀行	028	2002年度記念大会積立金	400,000
みずほ銀行	025	2001年度記念大会積立金	400,000
みずほ銀行	021	2000年度記念大会積立金	400,000
みずほ銀行	014	1999年度記念大会積立金	500,000
みずほ銀行	007	1998年度記念大会積立金	250,000
京都銀行	(002)	預金利子累積分**	20,221
計			12,872,670

* 2004年度記念大会積立金1,000,000円、2004年度夏期講座積立金の一部1,400,000円、2004年度e-ジャーナル積立金1,000,000円は京都銀行定期(預金番号002)に一括して積立。

** 京都銀行定期(預金番号002)に一括積立の2004年度記念大会積立金1,000,000円、2004年度夏期講座積立金の一部1,400,000円、2004年度e-ジャーナル積立金1,000,000円の利息。

【別表 2】2011 年度日本言語学会予算

自 2011 年 4 月 至 2012 年 3 月

(単位：円)

取 入		支 出	
科 目	金 額	科 目	金 額
会 費	13,000,000	刊 行 費	5,153,800
雑 誌 売 上	500,000	発 送 費	600,000
科学研究費補助金	1,700,000	事 務 委 託 費	4,284,000
科学研究費補助金利息	0	大 会 関 係 費	4,500,000
預 金 金 利	10,000	評 議 員 会 費	300,000
大会関係収入	1,600,000	常 任 委 員 会 費	800,000
広 告 料	0	編 集 委 員 会 費	500,000
雑 収 入	0	大 会 運 営 委 員 会 費	800,000
雑 益	0	広 報 委 員 会 費	700,000
基金からの繰り入れ	2,000,000	夏 期 講 座 委 員 会 費	200,000
夏期講座準備費返納	0	事 務 局 費	900,000
		学 会 賞 費	100,000
		多 様 性 プ ロ ジ ェ ク ト (公 募 型) 費	300,000
		夏 期 講 座 準 備 費	0
		言 語 系 学 会 連 合 費	150,000
		C I P L 負 担 金	120,000
		CIPL 言語学文献一覽編集補助	200,000
		通 信 費	700,000
		消 耗 品 費	400,000
		雑 費	0
		名 簿 作 成 費	2,100,000
		選 挙 関 係 費	900,000
		予 備 費	1,369,012
		(基 金 へ の 繰 入)	—
		名 簿 作 成 積 立 金	0
		選 挙 関 係 積 立 金	0
		多 様 性 プ ロ ジ ェ ク ト (公 募 型) 積 立 金	500,000
		夏 期 講 座 積 立 金	500,000
収 入 合 計	18,810,000	支 出 合 計	26,076,812
前 期 繰 越 金	7,266,812	収 支 差 額 (次 期 繰 越 金)	0
計	26,076,812	計	26,076,812

【別記1】『言語研究』執筆要項 3a) の改定

(旧)

- a. 論文は郵送または電子メールで学会事務局に提出する。いずれの場合も、2週間以内に受領確認のメールが届かないときは学会事務局に問い合わせること。郵送の場合は鮮明に印刷された原稿を4部提出する。メール投稿の場合は、下記(c)の「論文本体、注、参考文献、要旨」を合わせてひとつのPDFファイルとし、「表紙」はWORDまたはテキストファイルとして別に添付する。

(新)

- a. 論文は郵送または電子メールで学会事務局に提出する。いずれの場合も、2週間以内に受領確認のメールが編集委員長から直接届かないときは学会事務局に問い合わせること。郵送の場合は鮮明に印刷された原稿を4部提出する。メール投稿の場合は、下記(c)の「論文本体、注、参考文献、要旨」を合わせてひとつのPDFファイルとし、「表紙」はWORDまたはテキストファイルとして別に添付する。

(2011/6/18改定)

【別記2】「小委員会内規第2条、第3条」の改定

(旧)

1. 小委員会は、特定の検討事項が発生し、会長がその必要を認めた場合に、評議員会の承認を経て設置される。
2. 小委員会の委員長は、会長が個人会員中より指名委嘱する。
3. 小委員会の委員長は、会長と協議のうえ、個人会員中より小委員会委員を指名委嘱し、小委員会を組織する。会計監査委員は、小委員会委員を兼ねることができる。
4. 委員長と委員の任期は、小委員会の設置時に定める。任期の変更が必要な場合は、評議員会の承認を経て、任期を定めなおす。
5. 小委員会は、活動状況を評議員会および『言語研究』彙報欄において報告する義務を負う。

(1998年10月31日委員会決定。)

(2004年6月19日修正案可決。)

(2008年11月29日修正案可決。2009年4月1日施行。)

(2009年6月20日修正案可決。)

(2010年6月19日修正案可決。)

(新)

1. 小委員会は、特定の検討事項が発生し、会長がその必要を認めた場合に、評議員会の承認を経て設置される。
2. 会長は、個人会員中より小委員会委員長1名と小委員会委員若干名を指名委嘱し、小委員会を組織する。会計監査委員は、小委員会委員長および小委員会委員を兼ねることができない。
3. 委員長と委員の任期は、小委員会の設置時に定める。任期の変更が必要な場合は、評議員会の承認を経て、任期を定めなおす。
4. 小委員会は、活動状況を評議員会および『言語研究』彙報欄において報告する義務を負う。

(1998年10月31日委員会決定。)

(2004年6月19日修正案可決。)

(2008年11月29日修正案可決。2009年4月1日施行。)

(2009年6月20日修正案可決。)

(2010年6月19日修正案可決。)

(2011年6月18日修正案可決。)

【別記3】「日本言語学会論文賞」規程

日本言語学会

(目的・名称)

第1条 日本言語学会における研究の一層の向上を目的として、若手会員の傑出した研究論文を顕彰することを主眼とした「日本言語学会論文賞」(以下「論文賞」という。)を設ける。

(授賞対象)

第2条 論文賞は、選考の前年度と前々年度の2年間に刊行された学会誌『言語研究』(4号分)の「論文」(『言語研究』執筆要項に定めるもの)のうち、特に優れていると認められるものに授与する。

2 論文賞は、毎年原則として1論文(最大2論文)に対して授与する。賞にふさわしい論文がない場合は、該当論文なしとする。

(論文賞選考小委員会)

第3条 論文賞の選考のために「論文賞選考小委員会」(以下「小委員会」という。)を設ける。

2 小委員会の構成は常任委員2名、編集委員2名(うち1名は編集委員長)、評議員2名の計6名とし、うち1名を委員長とする。選考の対象となる『言語研究』に「論文」が掲載された者は小委員会委員になれない。

3 小委員会委員の任期は毎年4月から翌年3月までの1年間とし、原則として編集委員長以外は再任されない。

4 小委員会委員および委員長は、評議員会の承認を経て会長が指名委嘱する。

(選考過程)

第4条 小委員会は授賞候補論文を選考し、所定の書式にて会長に推薦する。

2 小委員会は授賞候補論文の選考に際し、必要に応じて有識者から学術的な意見を聴取することができる。この場合、小委員会は意見を聴取した者の氏名を会長に報告しなければならない。

(賞の決定)

第5条 会長は小委員会からの推薦に基づき授賞論文を決定し、常任委員会および評議員会において報告する。

(授賞)

第6条 授賞論文の著者に対し、大会において表彰状および副賞を授与する。

(附則)

1. この規程は2011年6月18日から施行する。

(2011年6月18日制定)

【別記4】「日本言語学会大会発表賞」規程

日本言語学会

(目的・名称)

第1条 日本言語学会の若手会員の研究を奨励し、学会全体の学術水準の向上を図るために、「日本言語学会大会発表賞」(以下「発表賞」という。)を設ける。

(授賞対象)

第2条 発表賞は、学部生・大学院生（年齢制限なし）または40歳以下の会員を筆頭かつ主たる発表者とする大会の口頭発表またはポスター発表のうち、特に優れていると認められた発表に対して授与する。

2 発表賞は、大会ごとに数件の発表に対して授与する。

(発表賞選考小委員会)

第3条 発表賞の選考のために「発表賞選考小委員会」（以下「小委員会」という。）を設ける。

2 小委員会の構成は常任委員1名、大会運営委員2名（うち1名は大会運営委員長）、評議員1名の計4名とし、うち1名を委員長とする。当該大会の発表者は小委員会委員になれない。

3 小委員会委員の任期は毎年4月から翌年3月までの1年間とし、原則として大会運営委員長以外は再任されない。

4 小委員会委員および委員長は、評議員会の承認を経て会長が指名委嘱する。

(選考過程)

第4条 小委員会は、実際に発表を聞いて審査を行う審査員を個人会員の中から選び、会長に報告する。当該大会の発表者は審査員になれない。

2 発表1件につき3名の審査員が審査を行う。

3 審査員は小委員会から指示された発表について審査を行い、所定の書式にて結果を小委員会に報告する。

4 小委員会は、審査員からの報告に基づき授賞候補発表を選考し、所定の書式にて会長に推薦する。

5 小委員会は、授賞候補発表の選考に際し、必要に応じて小委員会委員および審査員以外の有識者から学術的な意見を聴取することができる。この場合、小委員会は意見を聴取した者の氏名を会長に報告しなければならない。

(賞の決定)

第5条 会長は小委員会からの推薦に基づき授賞発表を決定し、常任委員会および評議員会において報告する。

(授賞)

第6条 授賞発表の発表者に対し、次の大会において表彰状および副賞を授与する。

(附則)

1. この規程は2011年6月18日から施行する。

2. この規程は第143回大会の発表から適用する。

(2011年6月18日制定)

【別記5】「著作物取扱規程」の改定

(旧)

6. 学会が、自らあるいは第三者を通じて、著作物の複製等を行う場合は、著者を含む学会会員に広く利益をもたらすものでなければならない。また、著作物の複製等を行うことについて委員会の承認を得なければならない。

(新)

6. 学会が、自らあるいは第三者を通じて、著作物の複製等を行う場合は、著者を含む学会会員に広く利益をもたらすものでなければならない。また、著作物の複製等を行うことについて評議員会の承認を得なければならない。

(2011年6月18日改定)

第 142 回大会

期日 2011 年 6 月 18 日 (土)・6 月 19 日 (日)

会場 日本大学

公開シンポジウム 6 月 19 日 (日) 13:30～16:40

「言語におけるデキゴトの世界とモノの世界」	司会 加藤 重広
I. 全体の展望	
「属性と事象の区別とその言語学的意義」	影山 太郎
II. 属性から事象へ	
「日本語諸方言の形容詞述語文」	八亀 裕美
III. 事象から属性へ	
「日本語のいわゆる〈主語から目的語への繰り上げ構文〉」	Stephen Wright Horn
「ワロゴ語 (豪州) における属性の表現」	角田 太作
「コリヤーク語の属性叙述専用形式と異常な統語操作」	呉人 恵
「中国語の付加詞主語構文について」	沈 力
IV. 総括	
「日本語の属性叙述と主題標識」	益岡 隆志
V. 総合討論	

口頭発表

—第 1 日 (6 月 18 日 (土)) 13:30～17:50—

。A 会場

(A 1)	13:30～	DP 内における形容詞句の構造的位置に関して	森田 千草
(A 2)	14:05～	英語の不定詞関係節の派生について	西前 明
(A 3)	14:45～	長距離再帰形の移動分析と命題態度の意味論への帰結	伊藤 祐輝
(A 4)	15:20～	Subject/object asymmetries and chain formation in Selayarese	Hideki MAKI Hasan BASRI
(A 5)	16:10～	統語構造の再帰的計算に選択的な言語野の活動	太田 真理 福井 直樹 酒井 邦嘉
(A 6)	16:45～	周縁部現象としての軽動詞構文の考察	小林ゆきの
(A 7)	17:20～	再帰形「自ら」に関する一考察	トルヒナ アンナ

。B 会場

(B 1)	13:30～	The 13th Stroke Boundary: Effects of visual complexity for Japanese kanji processing with high and low frequencies	Katsuo TAMAOKA Sachiko KIYAMA
(B 2)	14:05～	日本語における再文法化について—複合助詞を中心に—	劉 洪岩
(B 3)	14:45～	ヲ格名詞句をとる自動詞文について	安原 正貴
(B 4)	15:20～	「～ノコト目的語」における介在可能なコトの分析	湯本かほり
(B 5)	16:10～	同時的時間関係を表すタクシスの〈-e iss-〉	金 京愛
(B 6)	16:45～	韓国語の「KES-ITA」文について—「KES」の意味拡張を中心に—	李 英蘭
(B 7)	17:20～	日本語児による度量句の解釈	有井 巴

。 C 会場

- (C 1) 13:30 ~ サハ語 (ヤクート語) の統語的派生と脱範疇化 江畑 冬生
 (C 2) 14:05 ~ シベ語の補助動詞 senda- と se- について 児倉 徳和
 (C 3) 14:45 ~ グルジア語の使役動詞における目的語標示 児島 康宏
 (C 4) 15:20 ~ ブヌン語の「品詞分類」を再考する一特に「形容詞」の位置づけについて一 野島 本泰
 (C 5) 16:10 ~ 南琉球八重山波照間方言における焦点標識および主題標識の機能と分布 麻生 玲子
 (C 6) 16:45 ~ 日本手話の移動表現 神庭真理子
 (C 7) 17:20 ~ スリランカ手話における否定マーカー 加納 満

。 D 会場

- (D 1) 13:30 ~ 複合動詞とヴォイス辞がからむ語順変異一「監督が選手たちを「競争し合わせる～競争させ合う。」一ホカとシカの意味特質と統語的条件 山部 順治
 (D 2) 14:05 ~ 副詞との共起性から見た日本語関係節における「が・の」交替 片岡喜代子
 (D 3) 14:45 ~ 現代日本語における否定と呼応する類義副詞の使い分けの試論一コーパスを用いて「まったく・ぜんぜん・すこしも・ちっとも」を例に一 宮地 朝子
 (D 4) 15:20 ~ 「～ていく／くる」と「-e kata/ota」に関する一考察一移動を表す用法を中心に一 赤楚 治之
 (D 5) 16:10 ~ 奄美語湯湾方言における喉頭化共鳴子音の音響特徴 原口 智子
 (D 6) 16:45 ~ 再試行を表す複合動詞「～直す」の語形成一語彙的複合動詞と統語的複合動詞の連続性一 劉 時珍
 (D 7) 17:20 ~ 韓 京娥

。 E 会場

- (E 1) 13:30 ~ 依頼における「けど」で終わる言いさし文に関する考察一ポライトネス理論を軸に一 白田 泰如
 (E 2) 14:05 ~ ソ系の直示用法の派生過程について一問主観化による説明の試み一 平田 未季
 (E 3) 14:45 ~ ジンボー語ミッチーナ方言における出動名詞について一重複によるものを中心に一 大西 秀幸
 (E 4) 15:20 ~ 中国語受身マーカー文法化分析の新視点一「着点動作主動詞」から受身マーカーへ一 夏 海燕
 (E 5) 16:10 ~ 古代ギリシア語における倚辞のトーンについて 齋藤 有哉
 (E 6) 16:45 ~ ノルウェー語 Sandnes (サンネス) 方言の複合語アクトセント再考一三要素からなる複合語を中心に一 三村 竜之
 (E 7) 17:20 ~ Cantonese Loanwords: Conflicting VC Rime Michael KENSTOWICZ
 Constraints

◦ F 会場

- | | | | |
|-------|---------|--|---------------------------|
| (F 1) | 13:30 ~ | The Yanbian variety of Korean: A living fossil connecting the missing link between Korean and Japanese | Yin-Ji JIN
Hideki MAKI |
| (F 2) | 14:05 ~ | アラビア語チュニス方言のアスペクトを表示する前置詞 | 熊切 拓 |
| (F 3) | 14:45 ~ | ベトナム語の認識動詞 | 山崎 雅人 |
| (F 4) | 15:20 ~ | 日タイ両語のアスペクト形式について
—「タ」と「leew」を中心に— | ラッタナセリーウォン
センチアン |
| (F 5) | 16:10 ~ | (発表取り下げ) | |
| (F 6) | 16:45 ~ | ハワイ語における機能語 'ana の役割に関する考察 | 岩崎加奈絵 |
| (F 7) | 17:20 ~ | ペルシャ語児の使役動詞の獲得における「描写的ジェスチャー／擬態語」と「動性、瞬時性、有限性」に基づく「使役」概念のカテゴリー化 | ギィアーイー
レイラー |

ワークショップ

—第2日 (6月19日 (日)) 10:00 ~ 11:40—

ワークショップ1 (B会場)

「ユーラシア北東部諸言語の所有を表す接辞の意味論と構文論」

- | | | |
|------------------------------|-------|-------|
| | 企画・司会 | 江畑 冬生 |
| コリマ・ユカギール語の所有を表す接尾辞 -n'c/-n' | | 長崎 郁 |
| エウエン語の所有を表す接尾辞 -lkAn | | 鍛治 広真 |
| アリユートル語の所有を表す2つの接辞 | | 永山ゆかり |
| サハ語の所有を表す接尾辞 -LEEx | | 江畑 冬生 |

ワークショップ2 (D会場)

「項と結合した複雑述語の形成—その制約とメカニズムについて—」

- | | | |
|--------------------------------|-------|-------|
| | 企画・司会 | 由本 陽子 |
| 「名詞+ない」の形態を持つ複合形容詞 | | 岸本 秀樹 |
| 「名詞+動詞」型の複合語形成と意味構造における項の語彙的束縛 | | 由本 陽子 |
| スウェーデン語の不変化詞動詞と意味構造における編入 | | 當野 能之 |

ポスター発表

—第2日 (6月19日 (日)) 12:00 ~ 13:00— (百周年記念館入口ロビー)

街のなりたちと言語景観—東京・秋葉原を例として—

- | | |
|-----------------------------------|-------|
| | 田中ゆかり |
| | 富田 悠 |
| | 早川 洋平 |
| | 林 直樹 |
| 新聞コーパスにおける「二字漢語+する」の文法形式の選択傾向について | 田辺 和子 |
| | 中條 清美 |
| | 船戸はるな |

◇退 会

国内通常会員 34名

国内学生会員 6名

国内団体会員 1件



◇本学会特別顧問池上二良氏は、平成23年7月15日に逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。